

名古屋大学レゴ部の作品が彩るBLOCK71の開業

公益財団法人中部圏社会経済研究所 インターン生 岡野 太郎

名古屋市鶴舞に、日本最大級のオープンイノベーション拠点「STATION Ai」が開業した。これに合わせ、同施設に入居するシンガポール国立大学のスタートアップ支援拠点「BLOCK71 Nagoya」^(※1)の開業セレモニーが開催された。本稿では、現在、中部圏社会経済研究所にてインターン中の筆者が所属する名古屋大学レゴ部がBLOCK71のオープニングセレモニーで披露され、今もオフィスに展示されているレゴブロックのオブジェを制作した経緯と教育分野で目覚ましい広がりを見せるレゴの魅力をお伝えする。



写真1：BLOCK71 開業セレモニーの様子

オブジェを前に、左からシンガポール国立大学Tan学長・名古屋大学杉山総長・STATION Ai佐橋社長・愛知県大村知事

1. STATION AiとBLOCK71

10月に開業した日本最大級のオープンイノベーション拠点STATION Aiは、スタートアップの創出事業化支援、オープンイノベーションの推進、スタートアップの資金面での支援を目的としたファンドの運営などに取り組んでいる。700社を超える国内外のスタートアップ企業、パートナー企業、ベンチャーキャピタル等の支援機関や大学等が

STATION Aiに参画しており、シンガポール国立大学の起業支援部門が運営するスタートアップ支援機関BLOCK71も名を連ねている。

BLOCK71は、これが日本で初の拠点開設であり、日本と東南アジアを結ぶ強力なイノベーションハブとなることを目指している。本拠点では、日本のスタートアップ企業が東南アジア市場に進出するためのリソースとネットワークを提供するとともに、東南アジアのスタートアップ企業が日

(※1) 「BLOCK71」はシンガポールに本部を置くスタートアップ支援拠点で、世界各地に複数のアクセラレーション施設を設置している。以下、シンガポール・名古屋等の地域を問わず「BLOCK71」と記す。なお、シンガポールのBLOCK71については、本号調査研究レポート「アジアNO.1のスタートアップ最前線・シンガポールのエコシステムについて」を合わせてご覧いただきたい。

本市場に参入するための足がかりを提供する。

2. 名古屋大学レゴ部とBLOCK71 Nagoya

筆者が所属する名古屋大学レゴ部は、名古屋大学の学生によるサークルで、学部生から院生まで幅広いメンバーが所属している。レゴブロックを使った作品制作を中心に、教育セミナー活動や他大学との交流も行っており、これまでに、名古屋城や熱田神宮などの名所を再現した作品を制作し、展示会やイベントで発表してきた。

今回の作品は、名古屋のシンボルである鯨とシンガポールのシンボルであるマーライオン、さらに愛知県とシンガポール国立大学のロゴが一堂に会するオブジェである。この作品は、名古屋とシンガポールの象徴的なシンボルをレゴブロックで表現することで、両地域の連携と協力を象徴するものとして企画された。



写真2：LEGOオブジェ

3. 大人の学びと創造性を拓くレゴ

レゴは子供の玩具として広く知られているが、近年、レゴは教育分野において重要な役割を担っている。本稿では、その中でも特に注目されているレゴ シリアスプレイとレゴ エデュケーションを紹介する。

レゴ シリアスプレイとは、レゴを使って参加者の思考や経験、知識をテーマに沿ったモデルとして表現し、それを通して対話を行うことで、深いレベルでの理解や合意形成、新しいアイデアの創出を促すメソッドであり、チームビルディングや組織開発、企画立案などに利用されている。

ここで、「なぜレゴを使うのか？」という疑問が生じるかもしれない。

まず、抽象的な概念の可視化が挙げられる。レゴは形、色、大きさの異なる多様なパーツが存在し、組み合わせはほぼ無限に近い。言葉では伝えにくいニュアンスや感情、関係性など、抽象的な概念や複雑な状況を具体的な形として表現し、可視化することが可能になる。次に、手を動かすことによる思考の活性化が挙げられる。手を動かして何かを作る行為は、脳の様々な領域を活性化することが科学的に示されている。組み立ての過程で、無意識的な思考や潜在的なアイデアが表面化しやすくなり、身体感覚を通じた思考の深化が可能になる。最後に、モデルが参加者間の共通言語として機能することが挙げられる。シリアスプレイでは、モデルという客観的な対象を介して対話を行う。このため、個人的な反論や感情的な対立が起こりにくく、建設的な議論を進めることができる。

このように、レゴを使うからこそ、多岐に渡る効果を同時に引き出すことができるのである。もちろん、理論的背景も存在する。シリアスプレイは、マサチューセッツ工科大学で体系化された「コンストラクショニズム理論^(※2)」を基に設計されている。NASAをはじめとする国内外の企業研修に採用されており、参加者は内面を視覚的に表現し、他者との深い対話を通じて新たな視点を得ることができる。

一方、レゴ エデュケーションは、幼児から大学生までの幅広い教育段階に対応した教育プログラムを提供している。特にSTEM教育(科学、技術、工学、数学)に重点を置き、レゴブロックを

(※2) コンストラクショニズム理論：「Learning-by-making (作ることによる学び)」を核とした、人は何かを作ることを通じて深く学ぶという理論。能動的な学習、具体的な表現、他者との相互作用を通して知識を構築・再構築するプロセスを重視する。

使って学習者が楽しく学ぶことを目指している。具体例としては、ロボティクスやプログラミング教育があり、レゴブロックと専用ソフトウェアを組み合わせ実際に動くロボットを作成することで、プログラムの基礎を学ぶことができる。

レゴを使った教育の効果は、単なる知識の習得にとどまらず、創造力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上に大きく寄与している。学習者が楽しみながら学ぶことで、より積極的に学びに取り組み、その結果、深い理解と持続的な学習意欲を持つことができ、今後も多くの教育現場で活用されることが期待されている。

〈雑感〉

今回のプロジェクトを通じて、名古屋とシンガポールのつながりを象徴するオブジェを制作するという貴重な経験を得た。多くの人々から作品を見てもらうばかりでなくたくさんのお褒めの言葉をいただき、とても嬉しく思っている。また、レゴの教育的側面をきっかけにレゴブロックについて少しでも関心を持っていただければこの上ない喜びである。

BLOCK71 Nagoyaに設置されたこのオブジェが、訪れる人々にインスピレーションを与え、両地域の連携を深める一助となれば幸いである。